

語りかけるような演奏を期待して

国立歴史民俗博物館 名誉教授

小島美子

今回は語り物を中心に組立てられたと伺いましたが、これは一度は試みるべきよい企画だったと思います。

日本の伝統音楽は声を中心ですが、大きく分けると語り物と歌い物があります。その特徴は語り物は言葉優先、歌い物は音楽優先の音楽ということが出来ます。

語り物は言葉のアクセントやイントネーションを生かし強調します。その方法は多様で、義太夫などはその技法は素晴らしいです。山田耕柝はヨーロッパ留学の帰途、ロシアでダルゴメジスキーに会い、ことばのアクセントやイントネーションを生かす技法に強い影響を受け、悩んでいた歌曲の作曲に一条の光を見出したのです。彼の作品を歌った経験のある方はよくおわかりになると思います。

歌い物は民謡や有節歌曲でおわかりのように、一つのメロディにことばのアクセントなどとは関係なく合わせて歌う形です。歌っているとほとんど抵抗がありません。実は歌い物では特別重視したい言葉以外は、アクセントなどにこだわらなくてもいいのです。アクセントなどを守るべきというのは言語学者の言い分です。有節歌曲(たとえば演歌)の作詞者は誰もそんなことは考えていません。

今日演奏される方々は、伴奏の方も含めて楽器もまた、語りかけるような演奏をきつとして下さるだろうと期待致しております。

「春のステージ」に高まる期待

公益財団法人日本伝統文化振興財団 理事長

藤本草

「邦楽器とともに」シリーズは、現代を牽引する作曲家と詩人と演奏家が共に力を合わせ、三味線、箏、琵琶、笛、尺八など「邦楽器の響き」と「うたのこゝろ」に新たな光を当てる革新的な創造活動です。何故ならば、明治以降百五十年間に創作された声楽曲のほとんどはピアノ伴奏で、邦楽器伴奏の歌曲は宮城道雄の作品群を除き事例が数少なく、また一方、近現代の邦楽作品の多くが器楽作品だったからです。

ところが明治期以前の日本音楽は、一部のジャンルを除いて常に「歌い語られる」ものでした。打楽器的要素の強い三味線、箏、琵琶などの楽器と「日本語の詞章」を共に良い方向に導き、歌意や情景を如何に上手く伝えるかに様々な工夫が凝らされてきました。

今夕の公演は、うた・ものがたりへの誘いとして題されて開催されます。日本音楽の長い歴史の中で「うた」と並んで磨き上げられてきた「浄瑠璃」かたりもの「の世界に若い世代の作り手も参加し、「古典と現代」「邦楽と洋楽」の隔たりを超えてどのようなアプローチで現代の「新しいうた」が生み出されるのか。昨年新たにスタートした「春のステージ」の成果に大いに期待しています。

プログラム

司会

田中隆文

「霧の星座」

野川 初演

霧の星座

詩……………原 かずみ  
曲……………冷水 乃栄流  
歌……………枝 紀花  
箏・十七絃…森 梓紗  
箏・十七絃…今野 玲央

あしたはまべを

初演

詩……………伊藤 比呂美  
曲……………村上りの  
歌……………平林 希乃美  
長唄三味線…坂口あまね  
箏……………今野 玲央

この蟹や

初演

詩集「食うものはくわれる夜」より

詩……………蜂飼 耳  
曲……………村上りの  
歌……………平林 希乃美  
歌……………外崎 広弥  
長唄三味線…坂口あまね  
箏……………今野 玲央

酒呑童子

改定 初演

声と和楽器による音楽物語

台本……………福嶋 頼秀  
曲……………福嶋 頼秀  
歌……………後藤 桂  
三味線…………山崎 千鶴子  
十七絃…………合田 真貴子  
尺八……………田嶋 謙一  
打ち物……………多田 恵子

日本歌曲協会 代表

森田澄夫

本日はお忙しいなか、「春のステージ2019」にご来場いただき誠にありがとうございます。

「邦楽器とともに」が産声を上げた二〇〇六年以来、年一回のペースで新作の発表会を催してまいりましたが、昨年から新たに毎回テーマを持った演奏会「春のステージ」を立ち上げ年二回の演奏会を開催することに致しました。

第一回目となる昨年のテーマは「次代を担う若き音楽家と共に」。藝天生や二十代の若者たちのステージを組み込んだ演奏会は、彼らの作品や演奏の質の高さを十分に認識させるものでした。この流れを受け、今回も幕開けを若者たちの二つのグループが担います。

そして、今回のテーマ「うた・ものがたりへの誘い(いざな)いへ」。

琵琶唄、謡曲、義太夫などを例にあげるまでもなく、うたい、語りは邦楽の世界の最も得意とするジャンルです。本日の演目は、昔ばなしの「竹取物語」や「酒呑童子」、歌舞伎の開祖「阿国」、また童話作家・新美南吉創作の新しい昔ばなし「こぞうさんのおきよう」、心理劇風な「五色沼」までバラエティー豊かに、誰にでも親しめる曲から現代音楽まで幅広く並べてみました。

若い才能と第一線で活躍する奏者たちによって多彩な音色を奏でる邦楽器と、声のスペシャリスト声楽家が織りなす新しい日本の歌のステージ、お楽しみ頂けたら幸いです。

五色沼

詩……………藤井 慶子  
曲……………田丸 彩和子  
歌……………下野戸 亜弓  
琵琶……………首藤 久美子  
尺八……………田辺 頌山

こぞうさんのおきよう

作……………新美 南吉  
曲……………神坂 真理子  
歌……………中畑 有美子  
箏……………吉澤 延隆  
十七絃……………金子 展寛  
篠笛・鳴り物…あかる 潤

満月の夜に

― 女声と能管のための ―

詞……………竹取物語 より  
曲……………福士 則夫  
歌……………青山 恵子  
能管……………西川 浩平

「出雲の阿国」

歌曲

- 一、わらべ唄、ややこ踊り
- 二、念仏踊り
- 三、待つ宵は
- 四、りつちやりつゝたたら唄

詞……………閑吟集・伝承詞 より  
曲……………川崎 絵都夫  
歌……………百合 道子  
箏・三味線……………金子 展寛  
十七絃……………合田 真貴子  
篠笛……………あかる 潤  
打ち物……………多田 恵子

休憩